

季能古博物館だより

桃之夭々灼灼其華
之子于歸宜其室家

籠友作書



少葉 桃節句図 (掛幅)

桃 天 (※)

桃之夭天
灼灼其華
之子于歸
宜其室家

桃ノ天々タル

灼々タル其ノ華

コノ子于ニ歸グ

其ノ室家ニ宜シカラン

若木の桃

日うらうら

若木の桃に花咲く

この子とつぐ

よき妻とならむ

(※) 海音寺潮五郎著「詩経」中公文庫より引用

亀井家の末裔に育つて 亀井千秋

◆其の一 恋の詩

私は福岡の小学校を終えると、神主であった父のすゝめもあつて、伊勢の神宮皇学館の門を潜りました。此の学校は神職養成のため、その子弟が全国から集められていました。学校生活も馴れた或る日、寮監でもある漢学者の折尾国義先生から、呼び出しを受けました。

「亀井、お前は祖先に凄く恋の詩を作った亀井少栗と云ふ女史が、おられた事を知つて居るか。」少栗先生と云ふ名は親から聞いて、おぼろげ乍ら知っている程度でした。勿論その恋の詩など知る由もありません。私の十四、五才の頃のおはなし。

亀井少栗(シヨウキン、一七九八—一八五七) 作、折尾先生推筆の詩とは、

九州第一梅 今夜為君開
欲知花真意 三更踏月来

(註 三更は真夜中)

此れは数少ない五言絶句の詩、今日からすると二百年余も前の詩で、当時は「男女七才にして、席

を同じうせず」の儒教の思想が罷り通る時代、かかる詩が「よくぞまあ！」と云ふ感を強くします。

◆其の二 納骨のおはなし

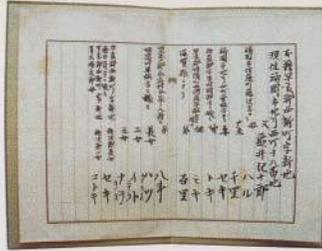
「踏み分ける麓の道は多けれど」

同じ高嶺の月を見るかな」私の父、百里は昭和十九年の三月、母、縫は二十一年三月の他界です。その頃、私はビルマの戦場に在り、

父母とは生き別れでした。

父母の葬儀は叔父の八斗と弟、九州生達がいたしました。

両親の納骨に当つては、亀井家累代のお墓に葬ることも慮んばかつた様ですが、戦中の事でもあり宗教の違い、神道と佛教とのことなど……。取り敢えず市の共同墓地に葬つた様です。



亀井家族書 (明治四十三年)

時移り戦後になつて、お寺より納骨堂が出来たので、ご祖先は皆様御一緒にお祀りしたいと云ふ申し出がありました。

却説両親の遺骨、共同墓地からの掘り起こし、移送作業がありま

した。永年の土に埋もれた遺骨はたつぷりと水分を含んでおりました。

お寺本堂正面、登り口の下、七輪に金網を乗せての乾燥作業でした。

そこで此んな一句が……、「骨拾ふ筈に無情があり過ぎる」

さて冒頭に掲げた歌(よみびと知らず)

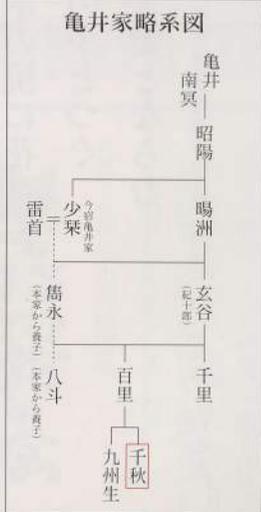
此の世にはいろいろな宗教があります。各宗教にとつて最後にたどりつくのは「同じ高嶺の月」に接する心境ではないでしょうか。

◆事務局から



寄稿していた だいた亀井千秋氏(84歳)は現在、長崎県諫早市に住んでおられます。

直接お会いした事はありませんが電話でのお声からは切れ味よく簡潔で豊饒としたお姿を想像します。亀井南冥から六代目、千秋氏の声は南冥先生のお声に似ているのでしょうか。ふとそう思った時、遠い雲の上の南冥先生はそれほど昔の方ではないのだと改めて気づきました。



事務局だより

今頃の季節、能古島へ渡る船の中から外を眺めるとお天気のよい日は海の色も明るく、陽の光を受けて柔らかく輝いています。夏ほど力強い光ではなく冬ほど弱々しくもなくまさに「春」の海です。

島へ近づくときピンクや白の梅の花がみえてきます。もうすぐ満開です。能古島へあがれば良い香りもしてきます。もうすぐ春。気持ちもだんだん軽やかになってきます。

当博物館の冬季休館も終りこちらも「春」オープンです。軽やかに……とはなかなかいきませんが島の人々やボランティアの方々にはささえられ職員一同、頑張っています。

どうぞご来館下さい。

第6回 能古の風フォトコンクール 入賞者発表

準グランプリ賞



「撩乱」 笠村幸正氏

準グランプリ賞



「砂浜で！」 野村 武氏

特別賞



「まもる」 安松顕子氏

第6回 能古の風フォトコンクール 入賞者

グランプリ賞	五万円	該当者なし	
準グランプリ賞	三万円	笠村幸正様	宗像郡津屋崎町宮司
準グランプリ賞	三万円	野村 武様	福岡市西区石丸
特別賞	二万円	安松顕子様	福岡市南区長住
能古島賞	一万円	柳瀬尚子様	福岡市西区泉
入選	一万円	小川 誠様	福岡市南区長住
入選	一万円	川上信也様	福岡市西区愛宕南
入選	一万円	木下良男様	筑紫郡那珂川町王塚台
入選	一万円	高鷹春一様	福岡市早良区小田部
入選	一万円	中山隆史様	福岡市南区井尻
入選	一万円	山口勝久様	福岡市西区小戸

のこしまでしよう
能古島賞



「収穫」 柳瀬尚子氏

昨年、秋の「能古の風フォトコンクール」もお陰様で無事終了することができました。ありがとうございます。今回の応募総数は186点でした。「能古博物館だより」の発行が遅くなり入賞者の掲載が遅れてしまいました。お詫び申し上げます。昨年に引き続き3月16日迄展示を延期致しました。

一度ご覧いただいた方もぜひもう一度御覧下さい。

(ホームページは昨年秋より掲載しております)

※本年もたくさんの御応募、お待ちしております。

